

令和 2 年度 第 2 回 屋久島世界遺産地域科学委員会  
ヤクシカ・ワーキンググループ及び特定鳥獣保護管理検討委員会合同会議  
議事概要

日時：令和 3 年 2 月 9 日(火) 13:30~16:30

場所：WEB 会議方式

議事 (1) ヤクシカの生息状況とその行動圏について

■主な意見

- ・R2 年度は、西部で増加に転じ、永田では依然として高密度である。栗生はやや減少したが、宮之浦岳周辺で増加に転じた。糞塊密度の推移について、表からは増減の全体像が見えてこない。(矢原座長、松田委員)
- ・中央部では糞粒調査で増加しているが、糞塊調査では変化が見られないため、糞粒調査では局所的な増加を見ている可能性がある。ただ希少種が多い地域のため、今後注意が必要である。(矢原座長)
- ・糞粒法の調査結果が局所的な増減を示しているかどうかはケースバイケース。糞粒・糞塊法の長短所を踏まえた上で、合わせて見ていく必要がある。(塩谷参事)
- ・糞粒調査と糞塊調査の 2 つとも実施し続けるのか、どこかで一つの手法にまとめるかの検討が必要。(松田委員)
- ・糞粒法は年度により調査地点数が異なるので、年度によるばらつきが見られる。1 年毎の結果で言及できることは少ない。地点毎ではなく河川界区分で、複数年のトレンドを追うことが必要。図は個体数推定値が縦軸になっているが、推定生息密度に注目していくと、河川界区分のシカの生息状況が分かりやすくなる。(濱崎委員)
- ・河川界区分毎に面積や植生が違うので、目標とする生息密度が違ってくる。それを整理して、河川界区分毎の目標を明確にすると捕獲計画が立てやすくなる。(八代田委員)
- ・GPS 調査については、有用なデータを得るために複数年で追跡する調査スケジュールを設定してほしい。(濱崎委員)
- ・本年度は小高塚岳、鹿之沢小屋で糞粒が多めに出ている。これは、新型コロナウイルスにより登山者が減少したためと考えられるので、今年 1 年の結果を大きな変動と捉えなくてもよいのではないか。(手塚委員)

議事 (2) 捕獲等の被害防止対策について

■主な意見

- ・コロナ禍でも猟友会での捕獲に影響はない。シカの地域的な減少や季節移動等により、月別の捕獲数に違いが生じていると思われる。(笠井委員)
- ・新規の狩猟免許取得者が、技術習得してシカ捕獲に従事できるよう育成支援体制を構築してほしい。(八代田委員)
- ・シャープシューティングについて、アニマルウェルフェアの達成度については、血液検査を行い、ほぼ確実に人道的な水準に達している。(鈴木委員)
- ・シャープシューティングでの誘引は、およそ 3 週間程度が目安。餌には複数の群れが誘引され、優位の群れが離れた後、劣位の群れが来る場合もあり、複数の群れを捕獲するという視点でも一定の誘引期

間の確保は重要。(鈴木委員)

・単に「西部地域」と言うと、遺産地域内と捉えられがちなため、遺産地域外の小楊子林道 24 支線付近の捕獲であれば「南西部」とするなど表記の仕方に気をつけてほしい。(手塚委員)

・シャープシューティングの実施に当たり、一昨年と本年度で、情報共有と日程調整の部分で改善すべき点が若干あった。捕獲はオール屋久島で取り組むということで、ぜひとも十分な日程調整と情報共有を進めてほしい。(鈴木委員)

### 議事 (3) 森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等

#### ■主な意見

・森林生態系の管理目標について、北部で希少種が回復、新規確認されたのはよい結果である。(矢原座長)

・絶滅危惧種のモニタリング調査について、屋久島全体でヤクシカの密度が下がり、植物が全体としては回復傾向にある中で、南部で大型ランを中心に絶滅危惧種の減少が今なお続いている。対策としては、小規模でもよいので柵を作るのが現実的と考える。(矢原座長)

### 議事 (4) 特定エリアの対策 (西部地域)

・西部地域の扱いについては、議論が二分しており、対策により植生回復を図る場所と植生やシカの個体群変動の推移にまかせる場所の両方を設定する以外に折り合いをつけられないと思う。植生回復を図る場所については、しっかりと捕獲やモニタリングをしていく必要がある。(矢原委員長)

・西部地域に関しては、シカ WG でも長年にわたって議論して、その結果として今回の瀬切地域での実験的な捕獲が始まっている。これからもきちんとモニターとフィードバックをしながら、結果を見ていくことが順当な方向である。(手塚委員)

・周囲からのシカの流入に関して、ラインセンサス等と違い、自動撮影カメラによる調査は面的なシカの密度を把握できる。移入も含めたシカの動向を把握できると考えられるため、期待している。(鈴木委員)

・個体数管理区の生息密度や区域の面積、自然増加率等を合わせ、必要捕獲数を算出してほしい。(濱崎委員)

・西部地域の件に限らないが、今後の方針について、WG を行う前に個別に委員にも相談してほしい。そうすれば委員も貢献できる。(松田委員)

### 議事 (5) その他

・ヤクシカの集団遺伝構造の解析結果について、矢原座長より情報提供。